HITACHI

FLORA 270W NW4

1

パソコンを準備する
ー電源を入れるまでー

1章 パソコンを接続しよう
2章 各部の名前と働きを知ろう
3章 パソコンを拡張するときは
4章 トラブルを解決するには
付録

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

重要なお知らせ

・本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
・本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
・本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
・本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

パソコンの信頼性について

ご購入いただきましたパソコンは、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。
高信頼性を必要とする場合には、別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。
一般事務用パソコンが不適当な、高信頼性を必要とする用途例
・化学プラント制御、医療機器制御、緊急連絡制御など

規制、対策などについて

●電波障害自主規制について
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

●電源の瞬時電圧低下対策について
落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）。

●ENERGYSTAR®について
当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
『国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加国間で統一されています。』

●パソコンの廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンはオフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
従って、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ・ソフトで初期化（フォーマット）する
- ・付属のリカバリー CD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows®などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
従って、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
パソコンユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

弊社では、HDD データ消去ユーティリティ『CLEAR-DA』を用意しています。詳細は FLORA ホームページ http://floracity.hitachi.co.jp/go/etc/dload/clearda/clearda.htm をご覧ください。

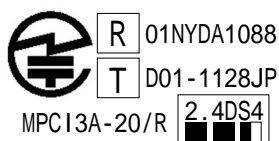
●PC グリーンラベル制度について

本製品は、JEITA「PC グリーンラベル制度」の審査基準（2002 年度版）を満たしています。詳細は、Web サイト http://www.jeita.or.jp をご覧ください。

●音楽 CD 再生について

ディスクレーベル面に COMPACT disc DIGITAL AUDIO マークの入ったものなど JIS 規格に合致したディスクをご使用下さい。規格外 CD を使用された場合には、再生の保証はいたしかねます。再生できた場合であっても、音質は保証いたしかねます。なお、規格外 CD を再生した場合、色々な不具合が発生することがあります。

●電波について（無線 LAN 内蔵モデル）
本製品の仕様周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。次項に注意してください。
・本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことをご確認ください。
・万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
・その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合などがおきたときは、弊社のお問い合わせ先にご連絡ください。

使用周波数帯域	2.4GHz
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	40m
周波数変更の可否	全体域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

●輸出規制について
本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規制等外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。なお、この装置に付属する周辺機器やプレインストールされているソフトウェアも同じ扱いになります。

版権についてのお知らせ

お使いになる前に

このたびは日立のシステム装置(以下、パソコン)をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。次の内容と各マニュアルの内容をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

基本ソフトについて

このパソコンには、次の基本ソフト(OS(オーエス)またはオペレーティングシステム)がインストールされています。インストールされている以外のOSは保証外です。

・Microsoft® Windows® XP Professional Operating System(以下Windows XP または Windows)
・Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System(以下Windows 2000 または Windows)

お問い合わせ先

●パソコンの操作や使いこなしについてのお問い合わせ
HITAC カスタマ・アンサ・センタにお問い合わせください。技術的なお問い合わせについて回答いたします。ただし、各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。

●故障や保守サービスについてのお問い合わせ
トラブルが発生した場合は、マニュアルの第4章をご確認ください。故障と判断される場合は、FLORA インフォメーションセンターまたはご購入先にお問い合わせください。併せて保守サービスのご案内をいたします。

■HITAC カスタマ·アンサ·センタ　(＊電話での対応は国内に限らせていただきます。)
TEL：0120-2580-91(フリーダイヤル)
受付時間：月曜日〜金曜日 9:00〜12:00、13:00〜17:00(祝日を除く)

■FLORA インフォメーションセンター　(＊電話での対応は国内に限らせていただきます。)

●納入後1週間以内の初期故障の場合
TEL　　：0120-5454-40(フリーダイヤル)
受付時間：9:30〜22:00(平日)
　　　　：10:00〜18:00(土・日・祝日)
＊1月1日は休ませていただきます

●左記以外の場合
TEL　　：0120-8824-40(フリーダイヤル)
受付時間：9:30〜22:00(平日)
　　　　：10:00〜18:00(土・日・祝日)
＊1月1日は休ませていただきます

●パソコンの廃棄についてのお問い合わせ
弊社では、事業系（法人）のお客様が廃棄するパソコンの回収リサイクルサービスを行っています。詳細については、日立リサイクルホットラインにお問い合わせください。

■日立リサイクルホットライン　(* 電話での対応は国内に限らせていただきます。)
TEL: 0120-12-5006(フリーダイヤル、携帯電話、PHS からは不可)
046-292-2560
受付時間：月曜日〜金曜日 9:30 〜 17:00（土・日・祝日、および弊社休業日を除く）
メールアドレス：kankyo@ebina.hitachi.co.jp

メールアドレスは、2002 年 12 月 1 日現在のものです。

●Windows XP/Windows 2000 のお問い合わせについて
インストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償となります。
詳細は、次で紹介しています。
ホームページアドレス
http://www.hitachi.co.jp/soft/cssds/index.html
メールアドレス
solution-soft@itg.hitachi.co.jp

パソコンの最新技術情報

パソコンに関する最新情報をホームページに掲載しています。ご参照ください。

参照

電子マニュアルからホームページを見る→ http://www.hitachi.co.jp/pc/ が表示されます。
URL は、2002 年 12 月 1 日現在のものです。

マニュアルの表記について

⚠	これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。
⚠警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
⚠注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
注意	これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。
用語	パソコンの用語を解説します。
CD/DVD ドライブ	このマニュアルでは、CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM & CD-R/RW マルチドライブをまとめて表記します。

マニュアルの説明している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。

もくじ

お使いになる前に 3
基本ソフトについて 3
お問い合わせ先 3
パソコンの最新技術情報 4
マニュアルの表記について 5
パソコンを安全にお使いいただくために 9
付属マニュアルの使い方 16
主なマニュアル 16
その他のマニュアル 16
作業の流れをつかんでおこう 18
はじめてパソコンを使うときは 18
トラブルが発生したときは 19
パソコンに何かを取り付けるときは 19
その他の目的のときは 19

1章　パソコンを接続しよう 21
接続しよう 22
置き場所や姿勢について 22
パソコンを接続しよう 23
LAN に接続する方は 24
モデムでインターネットに接続する方は 25
マウスで操作したい方は 26
ほかの周辺機器を使うときは 26
電源を入れよう 27

2章　各部の名前と働きを知ろう 29
パソコンと付属品の名前を知ろう 30
パソコン正面 30
パソコン背面 31
インジケーターランプの見方 32
ワンタッチキー 34
ディスクを使おう 35
ディスクの入れ方／取り出し方 35
フロッピーディスクの入れ方／取り出し方 37

3章　パソコンを拡張するときは 41
メモリーボードを取り付ける 42
増設時のお願い 42
メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた . . . 42

4 章トラブルを解決するには 45
電源を入れたときの異常 46
ビープ音が鳴ったり、エラーメッセージが表示されたら 46
こんな状態の時は 47
パソコン 47
ディスプレイ 48
マウス、ポインティングパッド 49
キーボード 50
電源 50
システムの動作がおかしい 51
アクセスランプ 53
BIOS メニュー 54
時計 54
電子マニュアル 54
ソフトウェアのトラブル 55

付録 57
パソコン仕様一覧 58
有寿命部品 61
アフターケアについて 62
保証書について 62
保守サービスについて 62
保守部品について 62

さくいん 63

パソコンを安全にお使いいただくために

■安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

・ 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。

・ 装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

■シンボルについて

安全に関する注意事項は、次に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。

これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。

これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。

これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意

これは、装置の重大な損害、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

【表記例１】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。

【表記例２】分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

【表記例３】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

■操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡ください。

■自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を越えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

警告

異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。

修理・改造・分解

本書の指示に従って行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。火災や感電、やけどの原因になります。

装置内部への異物の混入

通気孔などから内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

付属品の使用

AC アダプターやバッテリーパックなどは、必ず付属または指定のものをご使用ください。それ以外のものを使用すると、電圧、最大出力電流や＋－の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。

参照 関連ページ→ P.23

カバーの取り外し

カバーを取り外すときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には、通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。
またバッテリーを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。

電源コードの取り扱い

電源コードは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したりショートや一部断線で、過熱して感電や火災の原因になります。

- ものを載せない。
- 引っ張らない。
- 押しつけない。
- 折り曲げない。
- 加工しない。
- 熱器具のそばで使わない。
- 束ねない。
- 本パソコン以外の機器に使用しない。

装置上に物を置く

花びん、植木鉢など水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属物を置かないでください。内部に入った場合、そのまま使用すると、感電や発煙、発火の原因になります。

揮発性液体の近くでの使用

マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、パソコンの近くで使わないでください。パソコンの中に入って引火すると火災の原因になります。

電源プラグの抜き差し

- 電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コード部分を引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。
- 休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。
- 電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因になります。

電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

- 電源プラグは、根元までしっかり差し込む。
- 電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込む。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから、差し込む。
- グラグラしないコンセントを使う。

落下などによる衝撃

落下させたり、ぶつけたりするなど過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

⚠警告

使用する電源

使用できる電源は交流100V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさに従って内部が破損したり過熱・劣化して感電や火災の原因になります。

日本国以外の使用

本パソコンは日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより国外で使用すると火災や感電の原因になります。また他国には独自の安全規格が定められており本パソコンは適合していません。

航空機内での使用

航空機内で使用するときは、航空会社の指示に従ってください。航空機の計測器などに悪影響をおよぼすことがあります。

バッテリーパックの保管

バッテリーパックを保管する場合は、パソコンから取り外し、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないでバッテリーパックを保管すると、端子間どうしが接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。

バッテリーパックの液漏れ

・誤った取り扱いをすると、バッテリーパックから液漏れすることがあります。この液体には絶対に触れないでください。もし液体が手に着いたときは、流水で洗い流してください。万一、口に入ったときは水でゆすぎ、目に入ったときは清水で洗い流してから、医師の診断を受けてください。

バッテリーパックの持ち運び

バッテリーパックを持ち運ぶときはポリ袋などに入れてください。ほかの金属に触れ、端子間がショートし、過熱・発火・破裂などを引き起こし、火災やけがの原因になります。

バッテリーパックの充電

バッテリーパックを充電するときは、必ずこのパソコンに入れて充電してください。ほかの方法では、電圧、充電時間などが異なる場合があり、破裂・発火などの原因になります。

バッテリーパックの取り扱い

バッテリーパックは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。

・電池の＋－端子間をショートさせない。
・火中に投入したり、60 ℃以上に過熱しない。
・落下などによる強い衝撃を与えない。
・外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
・濡れた布で金属部分を拭かない。
・水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
・分解しない。
・火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
・指定外のバッテリーパックを使用しない。
・液漏れしている場合には、素手で触れない。万一付着した場合は水で洗い流す。
・本パソコン以外の機器に使用しない。

タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。

参照 関連ページ→ P.23

湿気やほこりの多い場所での使用

浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。

参照 関連ページ→ P.22

温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、火災や感電の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

警告

周辺機器の増設や接続
周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックが付いているときは、取り外してください。また、マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。

通気孔
通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。

電話線への接続と使用
雷が鳴っているときは、パソコンの使用および電話線の接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

参照 関連ページ→ P.25

モデム部分への接触
内部に触れる必要があるときは、モジュラーケーブル (電話線) を抜いてください。呼び出し (ベル) 着信時および雷が鳴っているとき感電するおそれがあります。

AC アダプターの取り扱い
AC アダプターは、次のことに注意してお取り扱いください。火災、感電もしくは発熱によるやけどの原因になることがあります。
- 絶対に分解しない。
- 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所で使用しない。
- 水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
- 熱がこもるような環境で使用したり、放置したりしない。
- 上に物を置かない。
- 必ず付属のコードセット (電源コード) を使う。
- 本パソコン以外の機器に使用しない。

梱包用ポリ袋について
パソコンの梱包用エアーキャップなどのポリ袋は、お子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると、窒息するおそれがあります。

電源スイッチについて
電源スイッチを OFF にしても、一部の回路には通電されています。休暇や旅行など長期間ご使用にならないときは、必ず AC アダプターの電源プラグを抜き、バッテリーパックを取り外してください。万一、部品破損時には火災の原因になります。

心臓ペースメーカーを装着時の使用
心臓ペースメーカーの装着部分から 22㎝ 以上離してご使用ください。電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

液冷モジュールについて
本パソコンでは、冷却のために液冷モジュールを使用しています。次のことに注意してお取り扱いください。誤った取り扱いをすると、故障・液漏れの原因となります。
- 落下などによる強い衝撃を与えない。
- ケースが著しく破損するような衝撃を与えない。
- 分解しない。

冷却液について
- 本パソコンでは、冷却のために冷却液を使用していますが、冷却液の補充・交換は不要です。ご自分で冷却液の補充・交換はしないでください。故障の原因となります。
- 液漏れしている場合には、パソコンの電源を切り、AC アダプターとバッテリーを取り外してください。もし液体が手に付着した場合は、流水で洗い流してください。万一、口に入ったときは水でゆすぎ、目に入ったときは、清水で洗い流してから、医師の診断を受けてください。

⚠注意

接続端子への接触

USB コネクターなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。金属片のある場所に置かないでください。発煙したり接触不良などにより故障の原因になります。

部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。約 30 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

参照 関連ページ→ P.42

金属など端面への接触

パソコンの移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。

参照 関連ページ→ P.42

不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

参照 関連ページ→ P.22

目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、パソコン本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因になります。

信号ケーブルについて

- ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。足をひっかけると、けがや接続機器の故障の原因になります。または大切なデータが失われるおそれがあります。
- ケーブルの上に重量物を載せないでください。熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。

低温やけど

パソコン使用中は底面が熱くなります。ひざの上などに直接のせて使用しないでください。低温やけどのおそれがあります。また、装置の一部が熱くなる場合がありますが、装置動作に支障をきたすものではありません。

ヘッドホンやイヤホン

ヘッドホンやイヤホン使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

眼精疲労について

ディスプレイを見る作業を行うときは、作業場を 300 ～ 1000 ルクスの明るさにしてください。また、連続作業するときは、１時間に 10 分から 15 分程度の休息をとってください。長時間ディスプレイを見続けると、眼に疲労が蓄積されます。

参照 関連ページ→ P.22

ディスプレイ部の破損

ディスプレイ部はガラスで出来ています。ディスプレイ部が破損したとき、ガラスの破片には直接触れないでください。けがをするおそれがあります。

アルミ電解コンデンサーについて

このパソコンや AC アダプターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、週日８時間使用で約５年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特に電源ユニットでの電解液の漏れは、発煙の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では５年より寿命は短くなります。

・参照 **関連ページ→ P.61**

モデムケーブルについて

モデムケーブルは、同梱のものを使って２線式のアナログ回線に接続してください。それ以外に接続すると、故障するおそれがあります。

参照 関連ページ→ P.25

注意

ディスプレイ部の開閉

開閉は、ディスプレイ部の中央上側を持ち行ってください。とくに閉じるときは、カチッとロックするまでゆっくりと倒してください。このようにしないと、ディスプレイ部の破損の原因になります。

バッテリーパックの廃棄

使用済みのバッテリーパックは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。

参照 関連ページ→ P.3

パソコンの廃棄

・事業者が廃棄する場合

「資源の有効な利用の促進に関する法律（通称：改正リサイクル法）」にもとづき、パソコン製造事業者である弊社は、お客さまのご依頼にもとづくパソコンの回収リサイクルサービスを提供しています。当該サービスでは回収リサイクルの効果を向上させるなど、法律の趣旨に的確に対応していますので、ご利用ください。

参照 関連ページ→ P.4

・個人が廃棄する場合

パソコンを廃棄するときは、お買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。

バックアップについて

ハードディスク装置のデータなどの重要な内容は必ず補助記憶装置にバックアップを取ってください。ハードディスク装置が壊れると、データなどがすべてなくなります。

LAN コネクターについて

LAN コネクターには、LAN ケーブルを接続してください。LAN ケーブル以外のケーブルを接続すると、故障するおそれがあります。

パソコン使用中の注意

節電機能が働いていない状態では、パソコン使用中にディスプレイを閉じたままにしないでください。そのまま長時間放置すると、パソコンの温度が高くなり、故障するおそれがあります。

電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

- テレビやラジオなどからできるだけ離す
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
- コンセントを別にする

■警告ラベル

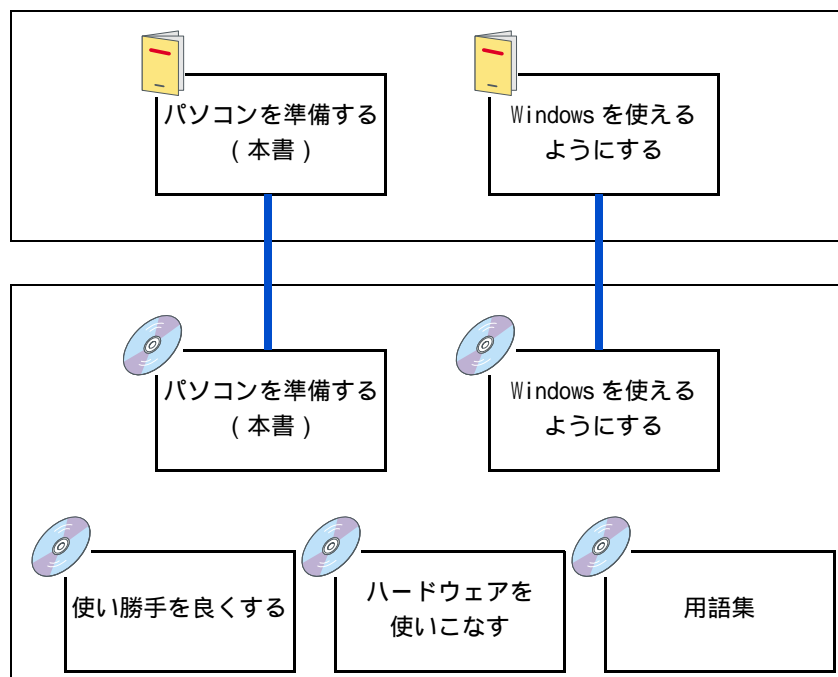
●パソコン

●AC アダプター

●バッテリーパック

付属マニュアルの使い方

主なマニュアル

このパソコンには、紙のマニュアルと、画面で読む電子マニュアルがあります。

紙のマニュアル

パソコンを接続してから、電源を入れてパソコンを動かすまでを説明しています。重大なトラブルへの対処方法やパソコンを購入時の状態に戻す方法などが含まれています。

電子マニュアル

紙マニュアルと同じ内容を画面で読むことができます。周辺機器の取り付け方やパソコンの使いこなし方などが含まれています。

その他のマニュアル

その他の紙マニュアル

OS 別に次のいずれかの紙マニュアルを付属しています。Windows に関する基本的な機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

- **ファーストステップガイド Microsoft® Windows® XP Professional**
- **クイックスタートガイド Microsoft® Windows® 2000 Professional**

その他の電子マニュアル

次の電子マニュアルを付属しています。必要に応じてお読みください。

- **内蔵モデム取扱説明書**
- **パソコンヒント集**
- **トラブル対応集**
- **BIOS 一覧**
- **インタフェース仕様一覧**

ヒント

★『トラブル対応集』、『BIOS 一覧』、『インタフェース仕様一覧』は、『活用百科』CD の、次のフォルダーからご参照ください。

- common フォルダー
  - ・トラブル対応集
- other フォルダー
  - ・BIOS 一覧
  - ・インタフェース仕様一覧

作業の流れをつかんでおこう

はじめてパソコンを使うときは

購入後、箱を開けてからはじめてパソコンの電源を入れるまでには、いくつかのステップがあります。

同梱品を確認する

付属の同梱品一覧

箱の中に入っている同梱品がすべてそろっていることを確認します。

接続して電源を入れる

本書の「1章　パソコンを接続しよう」

パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所や姿勢を知っておきましょう。そのあとパソコンを動作させるために接続して電源を入れます。

使用許諾契約に同意する

『Windowsを使えるようにする』の1章の「はじめて電源を入れるときは」

電源を入れて、Windowsを使えるようにします。

電源を入れ直す

『Windowsを使えるようにする』の1章の「電源を入れ直す」

電源を入れ直して、デスクトップ画面が表示されるか確認します。Windowsの操作はデスクトップ画面から始めます。

これだけは覚えておこう

本書の「2章　各部の名前と働きを知ろう」

パソコン各部の名前と、ディスクドライブの使い方を読んでおきましょう。

『Windowsを使えるようにする』の「2章　もっと詳しく知るために」

パソコンの使い方がわからないときは、電子マニュアルやWindowsのヘルプをお読みください。ここでは、電子マニュアルとヘルプの使い方を説明しています。

トラブルが発生したときは

■本書の「4章　トラブルを解決するには」
電源が入らない、ディスプレイに表示されない、マウスが動かないなど、電子マニュアルを読めない状況での対処方法を説明しています。

■電子マニュアル『使い勝手を良くする』の5章「パソコンQ&A」
その他のトラブルの対処方法を説明しています。

■『Windowsを使えるようにする』の3章「ご購入時の状態に戻すには」
パソコンを購入時の状態に戻す方法を説明しています。

パソコンに何かを取り付けるときは

■電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』の2章「周辺機器を接続する」
パソコンの外部に周辺機器を取り付ける方法を説明しています。

■本書の3章「パソコンを拡張するときは」
パソコンにメモリーボードなどを取り付ける方法を説明しています。

その他の目的のときは

電子マニュアルでは、次の内容も説明しています。詳しくは、それぞれの電子マニュアルをご覧ください。

■電子マニュアル『使い勝手を良くする』
1章「使い勝手を調節する」、2章「消費電力を節約する」、3章「付属ソフトウェアの使い方」、4章「追加セットアップ」

■電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』
1章「バッテリーを使う」、3章「日常のお手入れ」、4章「技術情報」

■電子マニュアル『用語集』
「各部の名称」「キーボード」「数字・英字」「五十音」

1 章

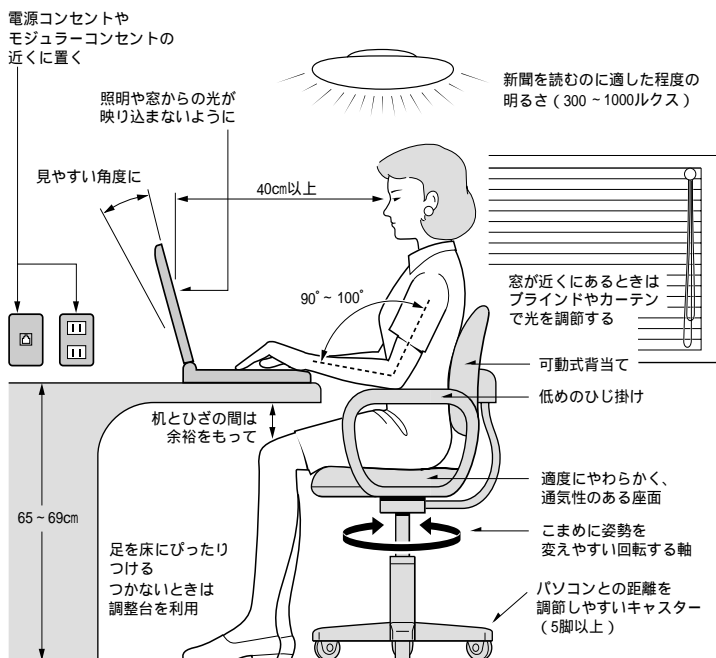
パソコンを接続しよう

この章では、パソコンの設置、接続方法、電源の入れ方について説明します。

接続しよう

まず『同梱品チェックリスト』ですべての付属品がそろっていることを確認します。
次に、パソコンの置き場所を決めて、接続しましょう。

置き場所や姿勢について

パソコンを使う場所によっては、パソコンに思わぬトラブルを起こす可能性があります。パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所と姿勢について知っておきましょう。

参照：日本人間工学会 ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン (1998 年 労働科学研究所発行)

- パソコンのディスプレイは、体の正面に設置し、見やすい角度に調節する。
- ディスプレイの照度、明るさと周囲の照明を適度に調節し、ディスプレイの反射を抑える。
- 明るさやコントラストなど見やすいように調節する。
- キーボードやマウスを使うときは、手首とひじは水平になるような位置を保つ。
- パソコンの作業時間は、１日に最大６時間を目安とし、１時間ごとに 10 ～ 15 分の休息をとる。
- キーボードは本などで使いやすい角度に調節する。
- 周辺機器を接続しても余裕のある、十分な作業空間を確保する。
- 不自然な姿勢を避け、ときどき姿勢を変える。

⚠警告

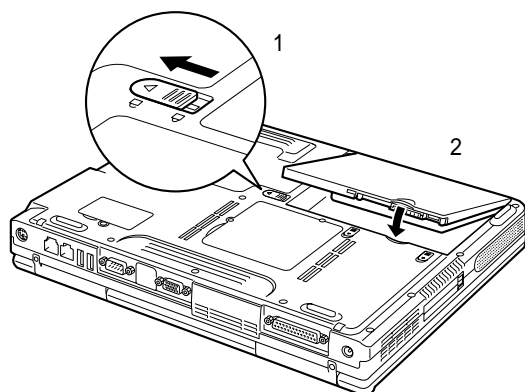
◎ **浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。**

⚠注意

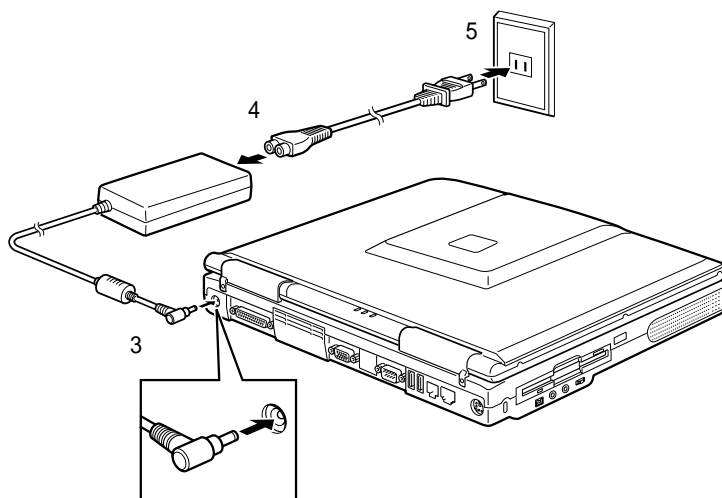
◎ **傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。**

パソコンを接続しよう

1 パソコンを裏返し、バッテリーロックを図の方向へスライドする。

2 バッテリーパックを「カチッ」と音がするまで差し込み、バッテリーロックを手順1と反対方向へスライドする。

3 AC アダプターを、パソコンの電源コネクターに差し込む。

4 AC コードを、AC アダプターに差し込む。

5 AC コードのプラグを、コンセントに差し込む。

ヒント

★ パソコンは、バッテリーパックを取り付けなくても AC アダプターだけで動かせます。

★ バッテリーパックを取り付けていないと、ディスプレイを後ろに倒したときに、パソコンが倒れることがあります。

参照

バッテリーパックの使い方は→電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』の1章「バッテリーを使う」

参照

バッテリーパックの取り外し方は→3章の「取り付け手順」(P.43)

⚠警告

◎ AC アダプター、バッテリーパックは本パソコン専用のものを使用してください。本パソコン専用以外のものを使用すると、電圧、最大出力電流、および+－の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。

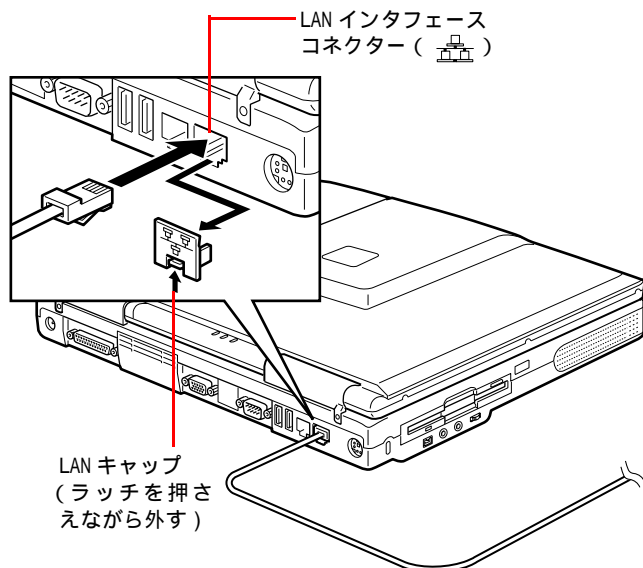
⚠警告

◎ 同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。

LAN に接続する方は

パソコンを LAN に接続する場合にお読みください。
ただし、『Windows を使えるようにする』の 1 章の操作を終えるまで、LAN ケーブルを接続しないでください。

1 パソコン背面の LAN インタフェースコネクター ( ) から LAN キャップを取り外し、LANケーブル(別売)を「カチッ」と音がするまで差し込む。

LAN ケーブルを接続しないときは、LAN キャップを取り付けておいてください。

LAN に接続するには、ほかにも必要な手続きが残っています。パソコンに電源を入れたあと、Windows のヘルプをご参照ください。

ヒント

★ コネクターは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。コネクターがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作の原因になります。

★ 取り外した LAN キャップは大事に保管してください。

重要

◎ LAN コネクターには LAN ケーブルを接続してください。LAN ケーブル以外のケーブル (ISDN ケーブルなど) を接続すると、故障するおそれがあります。

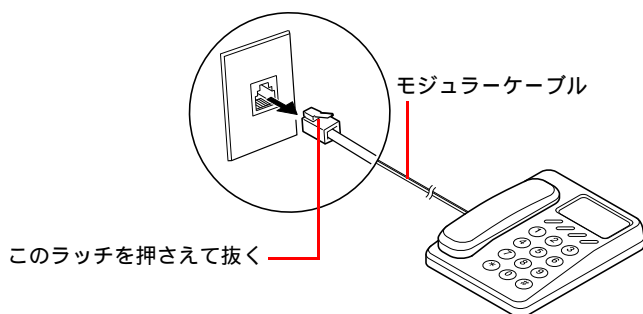
◎ LAN ケーブルには脱落防止用のラッチが付いています。LAN ケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながら LAN インタフェースコネクターから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、LAN ケーブルが断線したり、LAN インタフェースコネクターを破損するなどのおそれがあります。

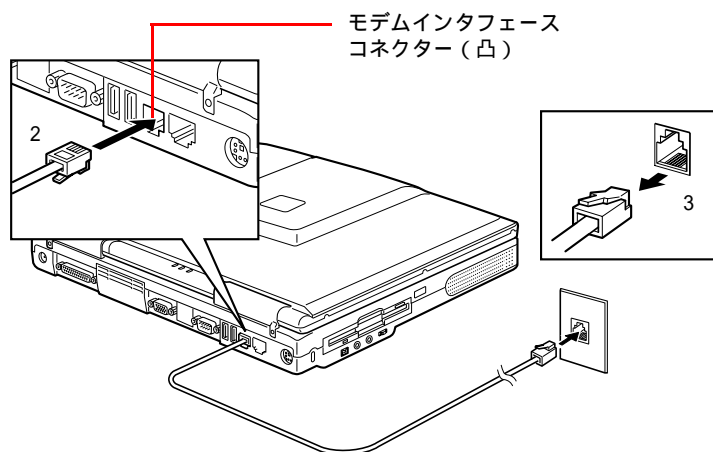
◎ 内蔵 LAN と上位プロトコルとの動作確認は、「Microsoft TCP/IP プロトコル」、「Microsoft NetBEUI プロトコル」、「Microsoft IPX/SPX 互換プロトコル」で行っています。その他のプロトコルを使用する場合は、あらかじめ接続、動作の確認を行ってください。

◎ 内蔵 LAN を BIOS メニューで「Disabled」にする場合、LAN ケーブルを本体に接続しないでご使用ください。

モデムでインターネットに接続する方は

モデムでインターネットに接続する場合にお読みください。

1 **お使いの電話機に接続しているモジュラーケーブルを、モジュラーコンセントから抜く。**

2 **同梱のモデムケーブルの片側を、モデムインタフェースコネクター（凸）に「カチッ」と音がするまで差し込む。**

3 **モデムケーブルの反対側を、モジュラーコンセントに「カチッ」と音がするまで差し込む。**
モデムケーブルは、必ずモデムコネクターに接続してください。誤って LAN コネクターに接続すると故障するおそれがあります。あらかじめ、マークなどを確認して接続してください。

インターネットを始めるためには、ほかにも必要な手続きが残っています。パソコンの電源を入れたあと、インターネット接続ウィザードで設定してください。

ヒント

★ 接続する前に、お使いになっている電話機の種類をご確認ください。お使いになっている電話機が親子電話やビジネスホンの場合、接続しても正常にインターネットを始めることができません。

★ モジュラーコンセントの形状がイラストのようになっていない場合は、モジュラーコンセントを変更する必要があります。詳しくは NTT にご相談ください。

★ モジュラーコンセントにモデムケーブルとパソコンを接続しているときは、電話機を使うことができません。電話機を使うときは、モジュラーコンセントからモデムケーブルとパソコンを取り外し、電話機を取り付ける必要があります。

重 要

◎ モジュラーケーブルには脱落防止用のラッチが付いています。モジュラーケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながらモジュラーコンセントから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、モジュラーケーブルが断線したり、モジュラーコンセントを破損するなどのおそれがあります。

⚠警告

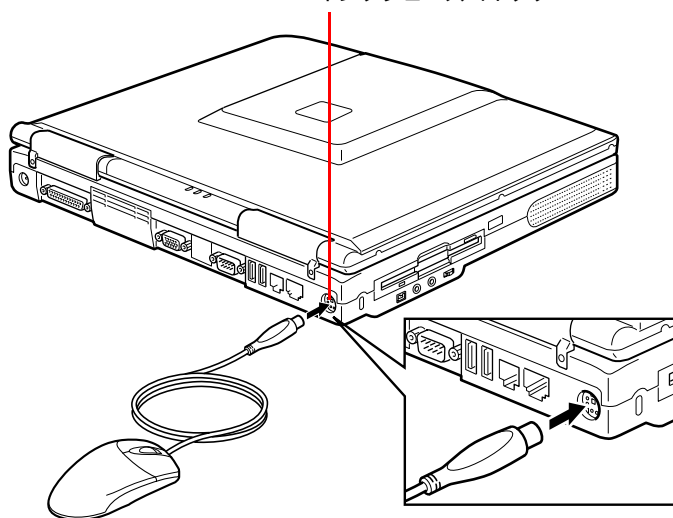
◎ 雷が鳴っているときは、パソコンの使用、アンテナ線の接続および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

⚠注意

◎ モデムケーブルは、同梱のものを使って 2 線式のアナログ回線に接続してください。それ以外に接続すると、故障するおそれがあります。

マウスで操作したい方は

マウスを使って操作したい方は、マウスをパソコンに接続しましょう。

1 マウスのコネクターを、パソコンのマウス / テンキーボード インタフェースコネクターに差し込む。

ヒント

★ パソコンを操作するときは、ポインティングパッドを使う方法と、マウスを使う方法の2通りがあります。パソコンを置く位置に、パソコンの大きさの3倍以上の広いスペースがあるときは、マウスを使って操作すると便利です。

参照

ドライバーの変更方法→電子マニュアル『使い勝手を良くする』3 章の「付属ソフトウェアの使い方」「ホイールマウスドライバー」

マウスの使い方→電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』2章の「マウス、テンキーボード」

重要

◎ PS/2 マウス接続時は、ポインティングパッドは使用できません。

◎ USB マウス接続時は、マウスとポインティングパッドの両方を使用できます。

ほかの周辺機器を使うときは

ほかの周辺機器を使うときは、電子マニュアルの『ハードウェアを使いこなす』を参照して接続してください。設定などの詳しい説明は、周辺機器のマニュアルをご参照ください。

●プリンターの接続について →『ハードウェアを使いこなす』2 章の「プリンターを接続する」

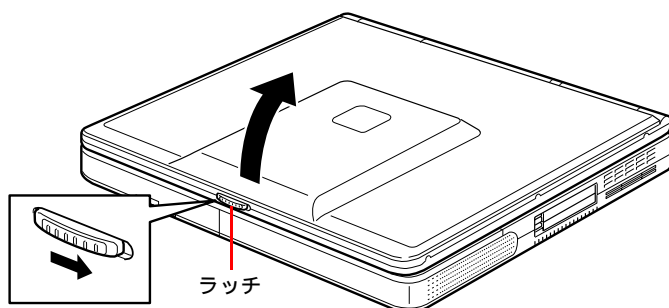
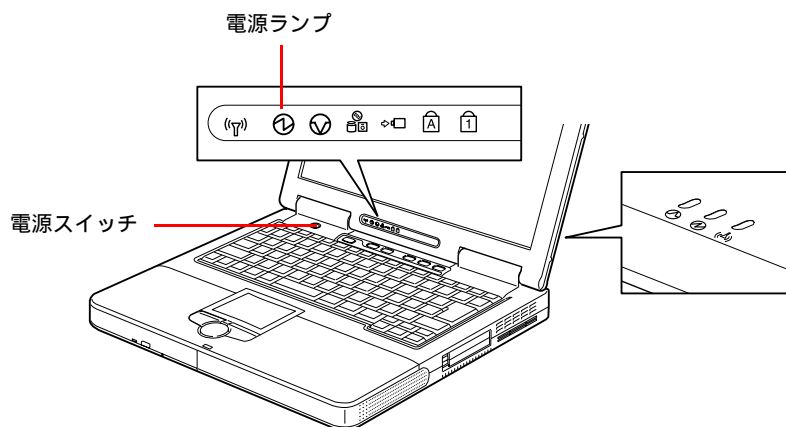
●ヘッドホン、マイクの接続について →『ハードウェアを使いこなす』2 章の「ヘッドホン、マイクを接続する」

●USB に対応した機器の接続について →『ハードウェアを使いこなす』2 章の「USB 機器を接続する」

●上記以外の周辺機器の接続について →『ハードウェアを使いこなす』2 章の「その他の周辺機器を接続する」

電源を入れよう

ここまででパソコンの電源を入れる準備ができました。
次に、電源を入れて Windows を使えるようにします。

1 ラッチを矢印の方向にスライドさせて、液晶ディスプレイを開く。

2 電源スイッチを押す。

▼電源ランプが点灯し、ディスプレイに画面が表示される。

はじめて電源を入れたときは、Windows の設定が必要です、引き続き、『Windows を使えるようにする』の１章「パソコンを始めよう」をお読みください。

ヒント

★ 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。電源を切るときには、パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

ヒント

★ 電源の切り方は、『Windows を使えるようにする』１章の「電源を入れ直す」をご参照ください。

2 章

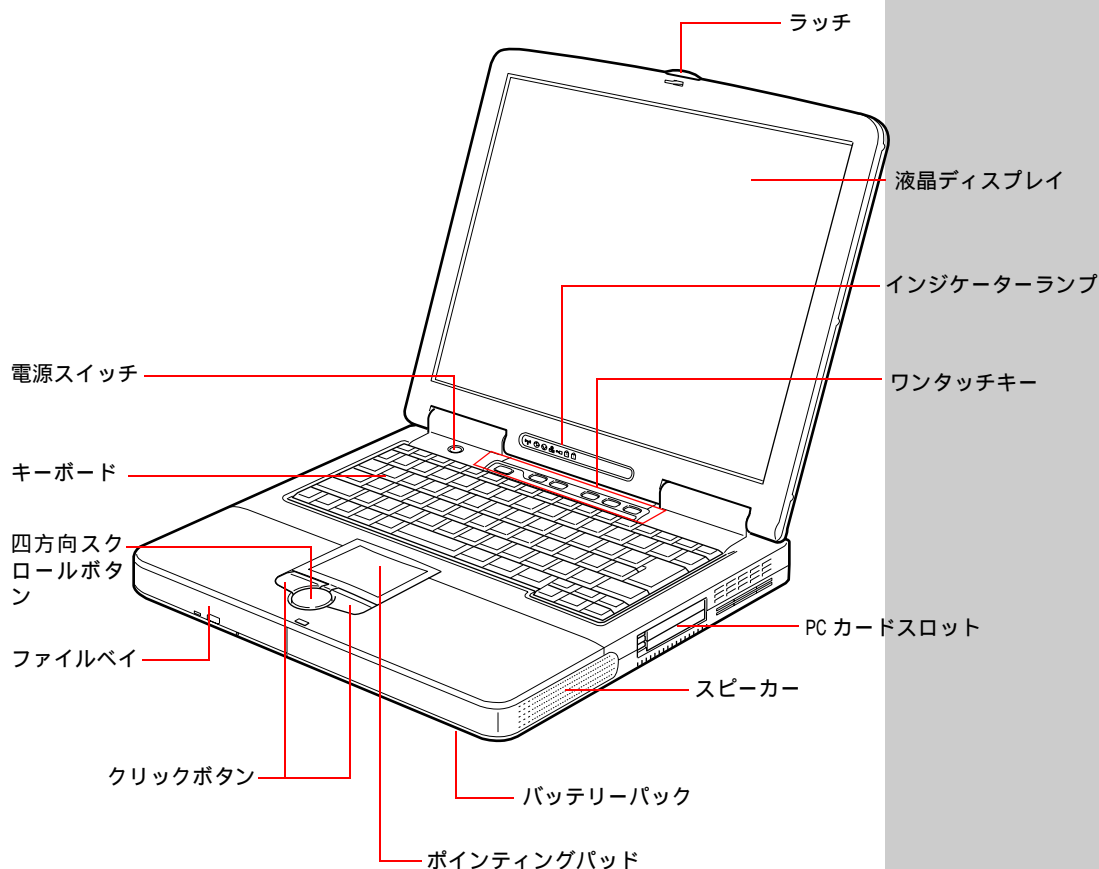
各部の名前と働きを知ろう

この章では、パソコン各部の名前と、ディスクドライブの使い方について説明します。

パソコンと付属品の名前を知ろう

パソコンの各部の名称を覚えてください。

パソコン正面

参照

各部の説明は→電子マニュアル『用語集』の「各部の名称」「ノートパソコン」

パソコン背面

参照

各部の説明は→電子マニュアル『用語集』の「各部の名称」「ノートパソコン」

インジケーターランプ

スピーカー

フロッピーディスクドライブ

スピーカーボリューム

ライン入力コネクター

ヘッドホンコネクター

IEEE1394 コネクター

盗難防止用ロック穴

マウス / テンキーボードインタフェースコネクター

LAN インタフェースコネクター

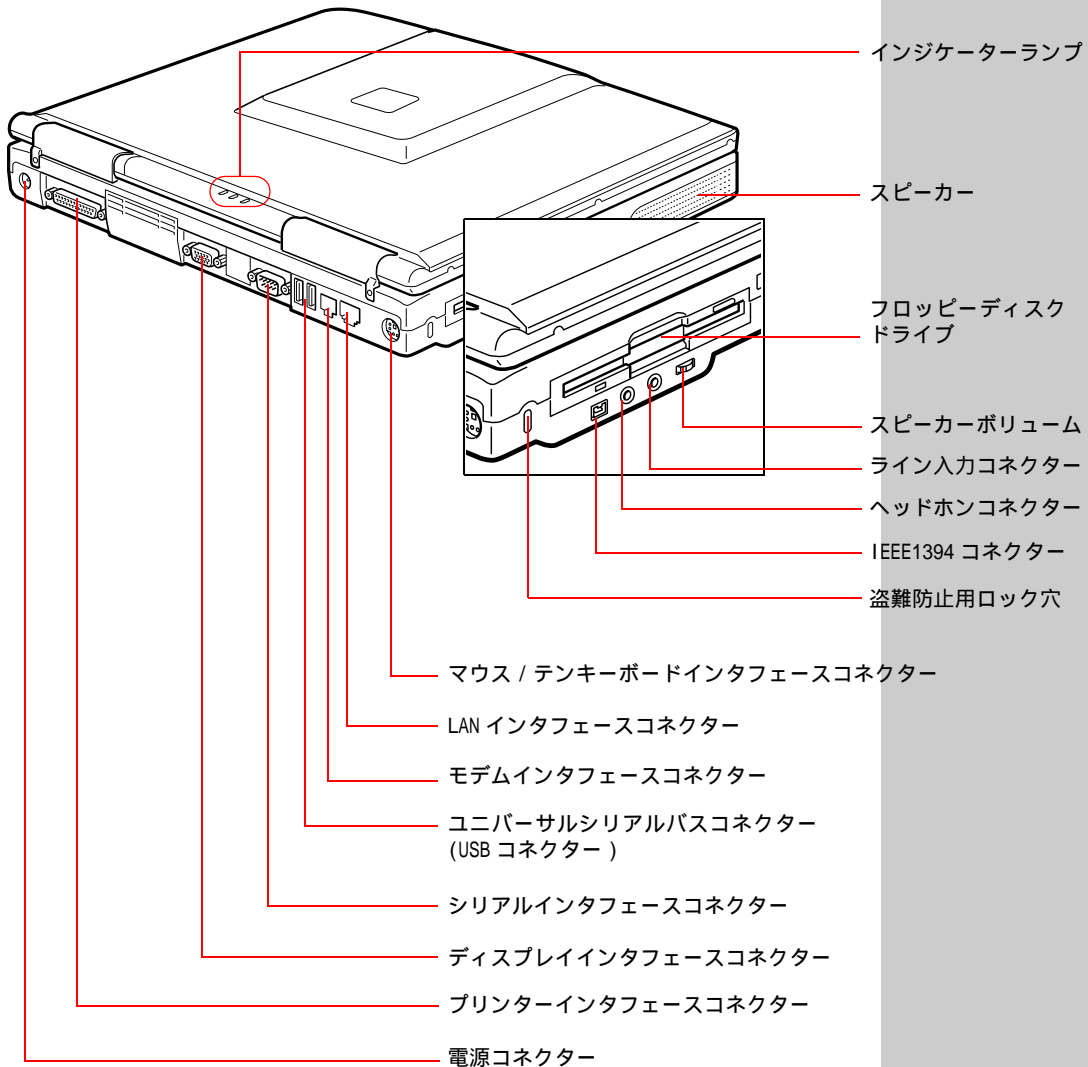
モデムインタフェースコネクター

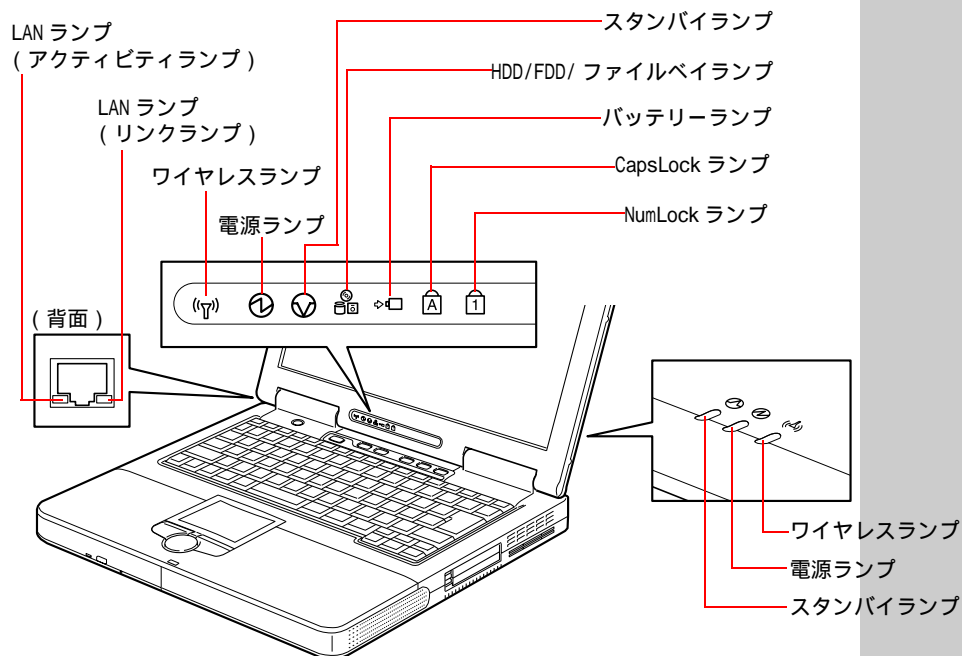
ユニバーサルシリアルバスコネクター（USB コネクター）

シリアルインタフェースコネクター

ディスプレイインタフェースコネクター

プリンターインタフェースコネクター

電源コネクター

インジケーターランプの見方

それぞれのランプの表示によって、パソコンの状態がわかります。

電源ランプ

電源ランプの状態で、パソコンの状態がわかります。

電源ランプ	パソコンの状態
点灯	電源が入っている
消灯	電源を切っている

スタンバイランプ

節電機能が働いて、パソコンがスタンバイ状態になっているときに点灯します。

HDD/FDD/ ファイルベイランプ

ハードディスクドライブ (以下、HDD)、フロッピーディスクドライブ (以下、FDD) または、ファイルベイのドライブのデータを読み書きしているときに点灯します。

重 要

◎ HDD/FDD/ ファイルベイランプの点灯中は、電源を切ったり、フロッピーディスクや CD-ROM などのディスクの出し入れをしないでください。ドライブやディスクが壊れることがあります。

バッテリーランプ

点灯時、バッテリーパックを充電中です。

CapsLock ランプ

点灯時、大文字のアルファベットを入力できます。消灯時は、小文字を入力できます。

NumLock ランプ

点灯時、キーボードの青色文字を入力できます。

ワイヤレスランプ

点灯時、内蔵無線 LAN が使えます。消灯時は、使えません。内蔵無線 LAN の使用の切り替えは、[Wireless] キーで行います。

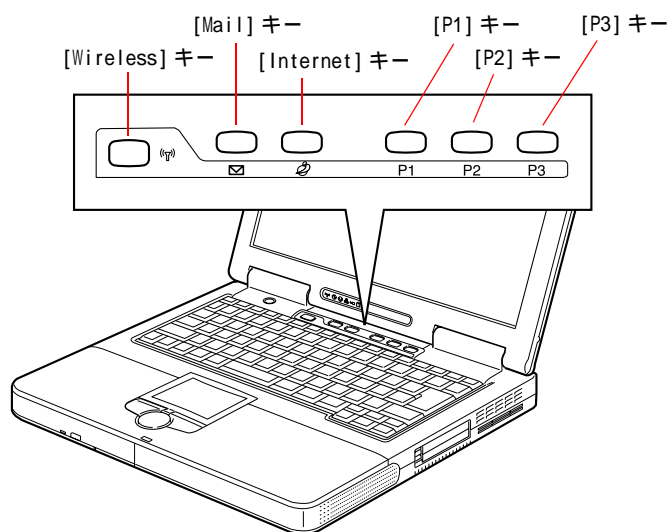
重 要

◎ 購入時の選択により異なります。

LAN ランプ

リンクランプ (橙)
点灯：100Mbps モードでリンクが確立されている。
消灯：100Mbps モードでリンクが確立されていない。

アクティビティランプ (緑)
点滅：データの送受信を行っている。
消灯：データの送受信を行っていない。

ワンタッチキー

[Wireless] キー

内蔵無線 LAN の使用を切り替えます。
内蔵無線 LAN が使用できるときは、ワイヤレスランプが点灯します。

[Mail] キー

インターネットメールを送受信するためアプリケーション「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」を立ち上げます。

[Internet] キー

インターネットに接続してホームページを見るためのアプリケーション「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」を立ち上げます。

[P1] キー、[P2] キー、[P3] キー

設定されたアプリケーションを立ち上げます。出荷時の状態では、ワンタッチキーの設定を行うための LaunchManager が立ち上がります。

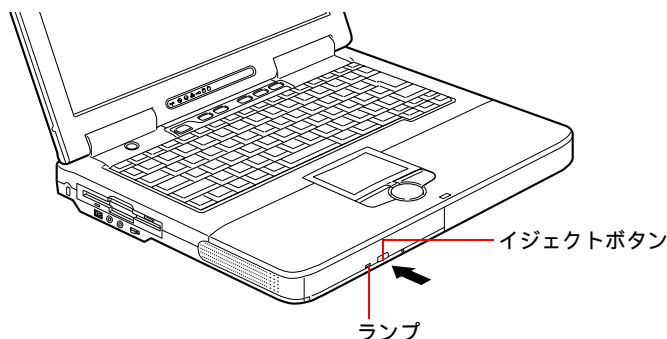
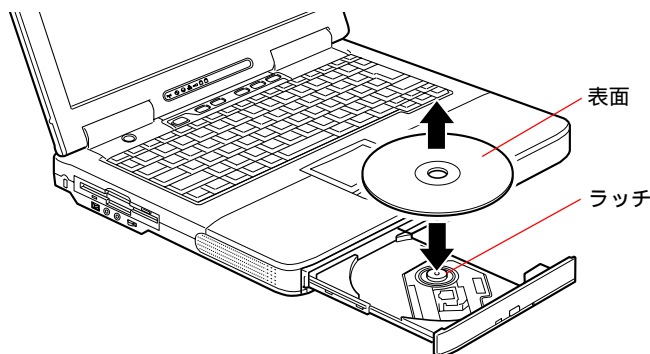
重要

◎ [Wireless] キーを押すと切り替え処理を表す Wireless Button Status が表示されます。Wireless Button Status が１分程度表示される場合がありますが、連続してキーを押さないでください。
Wireless Button Status 表示中は他の操作を行わないでください。

ディスクを使おう

ここでは、CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM&CD-R/RW(以下ディスク) と、ディスクを入れるドライブの使い方について説明します。また、フロッピーディスク (以下 FD) についても説明します。購入時に選択された仕様によって、パソコンに内蔵するドライブと使用できるディスクは異なります。

ディスクの入れ方／取り出し方

1 **ランプが点灯していないことを確認して、イジェクトボタンを押し、トレーを引き出す。**

2 **ディスクの表側 (ラベルが書かれている面) を上に向け、ラッチが「カチッ」と音がするまで入れる。または、取り出す。**

ヒント

★ パソコンの電源が入っていないと、トレーは出てきません。

◎ ランプ点灯中はトレーを出さないでください。ドライブまたはディスクが壊れることがあります。

◎ トレーを出し入れするときに、トレーを無理に引き出したり押し込んだりしないでください。ドライブが壊れることがあります。また、ディスクをセットしたり取り出すとき以外はトレーを引き出さないでください。

◎ 割れたり変形したディスクをドライブに入れないでください。故障の原因になります。

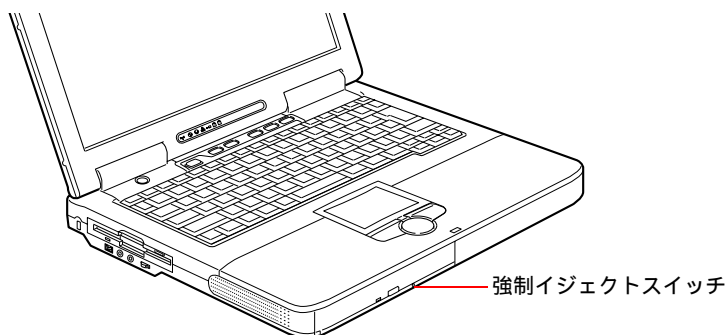
◎ ディスクのセンター穴をラッチにはめずにトレーを閉めると、ディスクがトレー口に入って取れなくなることがあります。

3 「カチッ」とロックするまで、トレーを押して閉める。

▼自動でディスクを読む設定になっているときは、ディスクを入れると再生が始まる。

ディスクの強制取り出し

イジェクトボタンを押してもトレーが開かないときは、細いピンなどを差し込んでドライブを開けることができます。

1 細いピンなどで、強制イジェクトスイッチを押す。

ヒント

★ ディスクに自動立ち上げのファイルがないときは、ディスクの再生が自動になりません。

参照

自動でディスクを読む設定について
→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1章の「CD/DVDドライブを設定する」

重要

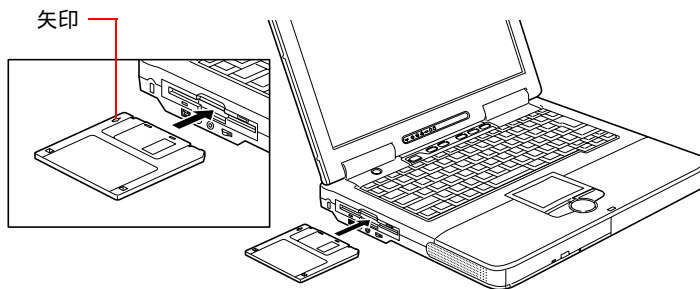
◎ 勢いよくトレーを押すとHDDの故障の原因になりますので、ゆっくりと押してください。

重要

◎ 通常は、強制イジェクトスイッチは使わないでください。ただし、イジェクトボタンを押してもトレーが出ないときは、強制イジェクトスイッチに細いピンなどを差し込んで取り出してください。

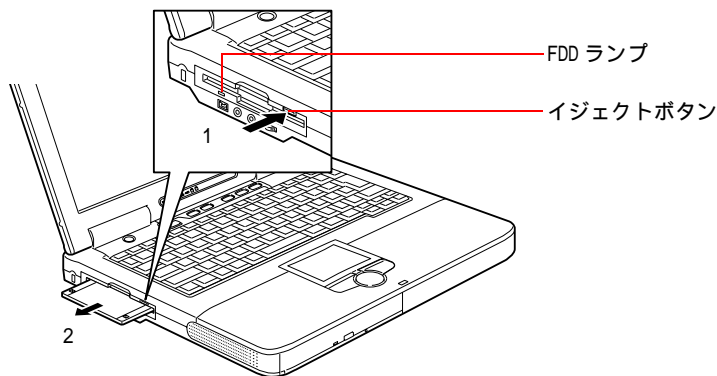
フロッピーディスクの入れ方／取り出し方

フロッピーディスクを入れる

1 **表側 (ラベルをはる面) を上に向け、矢印をフロッピーディスクドライブ (以下、FDD) に向け、「カチッ」と音がするまで押し込む。**

◎ FD を FDD に入れたまま、パソコンの電源を入れないでください。正常に Windows が立ち上がりません。Windows が立ち上がってから FD を入れてください。

フロッピーディスクを取り出す

1 **FDD ランプが点灯していないことを確認して、イジェクトボタンを押す。**

2 **FD が出てくるので、FDD から取り出す。**

重要

◎ FDD ランプの点灯、点滅中に FD を出し入れすると、FDD または FD が壊れることがあります。

◎ パソコンの電源を切るときは、FD を取り出してからにしてください。FD を入れたまま電源を切ると、FD が壊れることがあります。また、FD を入れたまま、電源を入れると、パソコンが立ち上がらないことがあります。

FD の種類

このパソコンで次の FD が読み書きできます。
・2DD：720KB フォーマット
・2HD：1.44MB フォーマット／1.25MB フォーマット

フォーマットする

1 **FD を FDD に入れる。**

2 **[マイコンピュータ] の「3.5 インチ FD(A:) 」を右クリックする。**

3 **メニューから [フォーマット] を選択する。**

4 **フォーマットする FD に合せて、[容量] に「 1.44MB 」または「 720KB 」を選択する。**

・[フォーマットオプション] の [クイックフォーマット] をチェックしない。
・オプション項目があるときは、必要に応じて設定する。

5 **[開始] ボタンをクリックする。**

▼フォーマットが開始される。終了すると [フォーマットが完了しました。] と表示される。

6 **[OK][閉じる] の順にボタンをクリックする。**

重要

◎ 1.44MB の FD を 1.25MB の容量にフォーマット (初期化) できません。
◎ 1.25MB でフォーマットされている FD を 1.44MB でフォーマットし直しても、正常に使用できないことがあります。
◎ 2DD の FD をフォーマットしたあと、すぐに FD に読み書きすると読み書きのエラーが発生することがあります。一度 FD をドライブから取り出し、入れ直してください。
◎ 2HD 1.25MB の FD を使うには、3 モード FD ドライバーをセットアップする必要があります。
◎ Windows XP の場合、2DD(720KB) のフォーマットはできません。

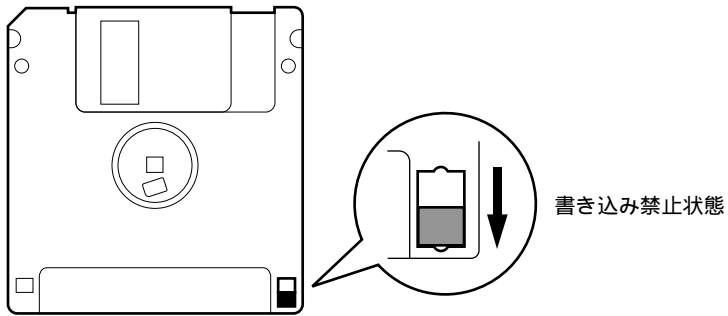
参照

3 モード FD ドライバーのセットアップ→電子マニュアルの『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」

書き込みを禁止する

ここでは、FD への書き込みを禁止する方法を説明します。大切なデータを誤って消してしまうことがなくなります。

1 FD の裏側のライトプロテクトノッチを矢印の向きにスライドする。

▼書き込みが禁止される。

3 章

パソコンを拡張するときは

この章では、パソコンのメモリーボードを追加する方法について説明します。

メモリーボードを取り付ける

メモリーボードを増設すると、メモリー容量を増やすことができます。最大 1024MB まで増設できます。

増設時のお願い

⚠注意 **■パソコン内が冷えるまで待つ**
電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。約30 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

⚠注意 **■綿手袋を着用する**
パソコン内部に触れたり、メモリーボードに触れるときは綿手袋を着用してください。素手で触れると故障の原因になります。また、手にけがをおうおそれがあります。

注意 **■体から静電気を逃がしておく**
パソコンやメモリーボードは精密機器です。わずかな静電気も故障の原因になります。あらかじめ金属に触れるなどして、体から静電気を逃がしておいてください。

メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた

メモリーボードは、この表の組み合わせに従って増設してください。

メモリー実装容量	ソケット 1	ソケット 2
128MB	128MB	—
256MB	128MB	128MB
	256MB	—
384MB	128MB	256MB
	256MB	128MB
512MB	256MB	256MB
	512MB	—
640MB	128MB	512MB
	512MB	128MB
768MB	256MB	512MB
	512MB	256MB
1024MB	512MB	512MB

参照

メモリーボード以外の周辺機器の接続→電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』の 2 章「周辺機器を接続する」

重要

◎ 仕様の異なるメモリーボードを取り付けないでください。正常に動作しない場合があります。

参照

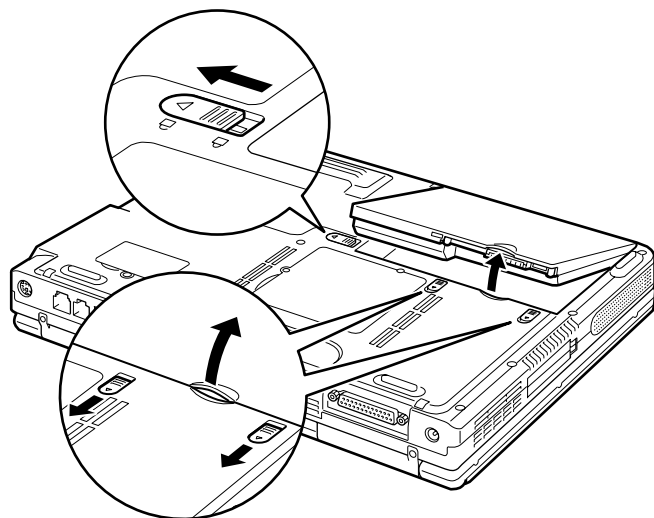
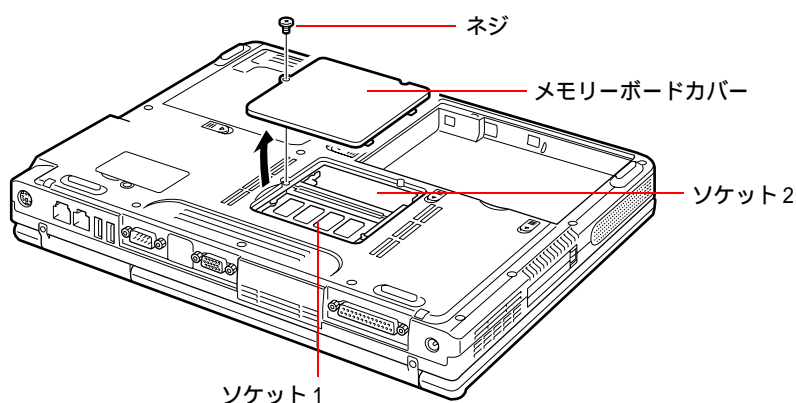
メモリーボードの仕様について→『ハードウェアを使いこなす』4 章の「その他の周辺機器の仕様」

ヒント

★ メモリー実装容量は、[システムのプロパティ] の [全般] タブで確認できます。

取り付け手順

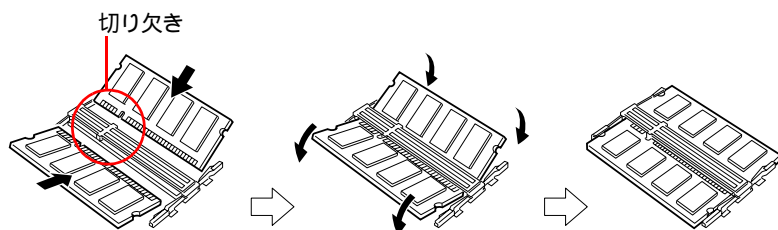
1 **パソコンの電源を切り、AC アダプターをパソコンから取り外してパソコンを裏返す。**

2 **バッテリーロック①を図の方向へスライドし、バッテリーロック②をスライドさせたまま、バッテリーパックを取り外す。**

3 **ネジをゆるめ、メモリーボードカバーを取り外す。**
(ネジはカバーと一体となっており、単独で外すことはできません。)

ヒント

★ メモリーを増設する場合に空きソケットがないときは、先に取り付けられているメモリーボードを取り外してください。

参照

メモリーボードを取り外す方法について→「取り外し手順」(P.44)

4 メモリーボードの切り欠きがソケットに合うようにしっかり取り付ける。

5 カバーを取り付け、ネジを締める。

6 バッテリーパックを取り付ける。

重要

◎ メモリーボードは確実にロックしてください。メモリーが正しく増設されません。また、パソコン誤動作の原因となります。なお、誤った取り付け方をしたために発生した破損などについての修理は有償となります。あらかじめご了承ください。

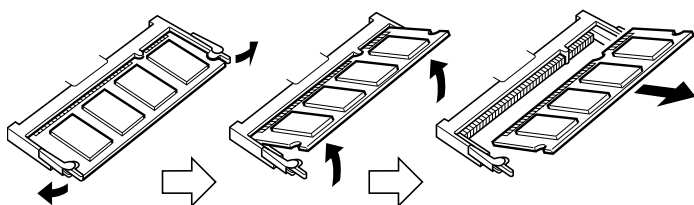
参照

バッテリーパックの取り付けについて→1章の「パソコンを接続しよう」(P.23)

取り外し手順

メモリーボードの取り外し手順を説明します。

1 取り付け手順1～3を行い、メモリーボードのカバーを取り外す。

2 ソケットの両端にあるラッチを外側に押し広げ、メモリーボードを取り外す。

3 カバーを取り付け、ネジを締める。

4 章

トラブルを解決するには

この章では、パソコンの電源が正常に入らなくなった状態と対処方法を説明します。

パソコンの電源が入ったものの正常に動かないときは、

『使い勝手を良くする』の 5 章「パソコン Q&A 」を参照して対処してください。

電源を入れたときの異常

ビープ音が鳴ったり、エラーメッセージが表示されたら

パソコンの電源を入れたときにビープ音が鳴ったり、エラーメッセージが表示されたときは、次のように対処してください。

ビープ音

鳴る回数	推測される原因	対処方法
4回	バッテリーでパソコンを立ち上げようとしたが、バッテリーの残量がほとんどない	＊1
3回	パソコン内部が高温になっている	＊2
長音	結露している	＊3
	冷却液が漏れている	＊4

エラーメッセージ

エラーメッセージ	推測される原因	対処方法
Equipment Configuration Error	BIOSの設定値に誤りがある	＊5
Floppy Disk Controller Error	フロッピーディスクコントローラーが不良である可能性がある	＊6
Real Time Clock Error	リアルタイムクロックエラーを検出した	＊6
CMOS Battery Bad	CMOSのバッテリーがなくなった	＊6
CMOS Checksum Error	CMOS-RAMエラー	＊7
Incorrect password specified. System disabled.	誤ったパスワードを入力したため、システムが停止した	＊8

＊1:一度電源を切ってバッテリーを充電するか、ACアダプターを接続して立ち上げ直してください。
＊2:一度電源を切って数時間放置し、熱を冷ましてから、立ち上げ直してください。
＊3:電源を切って、室温で数時間放置してください。
＊4:電源を切って、ACアダプターとバッテリーを外し、お買い求め先にご連絡ください。
＊5:「BIOSの設定」を参照し、セットアップメニューを正しい情報に設定してください。それでもエラーになるときは、お買い求め先にご連絡ください。
＊6:お買い求め先にご連絡ください。
＊7:CMOS-RAMエラーが発生したあとにセットアップメニューに入ると、設定した内容は標準状態に戻ります。
＊8:一度電源を切って、パスワードを入力し直してください。パスワードを忘れたときは、お買い求め先にご連絡ください。その場合は有償で対処します。

こんな状態の時は

ここでは、パソコンや周辺機器などが正しく動作しなくなった状態とその対処方法をまとめてあります。それ以外のトラブルについては、電子マニュアル『使い勝手を良くする』の5章「パソコンQ&A」にもまとめています。次の対処方法や「パソコンQ&A」で説明している対処方法を行っても症状が改善されないときは、お問い合わせ先にお問い合わせください。

参照
お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.3)

パソコン

Q
パソコンが異常に熱い、煙が出た、異臭がする

A
万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。お問い合わせ先にご連絡ください。

Q
操作していないのに、カリカリと音がする

A
Windows には、一定時間操作しないとき、ハードディスクを最適な状態にするプログラムを自動的に起動させる機能があります。いつも操作しているときと同じ程度の音が聞こえても、心配はありません。
あまりにも大きな音がしたり、音がしだいに大きくなっていくような場合は、すぐに電源を切り、購入店かお問い合わせ先にご連絡ください。

Q
使用中に突然、回転音がする

A
装置内部を冷却するためにファンが回転しています。また、内部温度によってファンの回転数を変更しますので、音が大きくなったり、小さくなったりしますが、故障ではありません。

Q
Windows のセットアップの途中で電源を切ってしまった

A
1分程度待ってから電源を入れ直し、最初からセットアップを行ってください。

Q
ハードウェアの検出中に画面が動かなくなってしまった

A
ハードウェアの検出には、数分から十数分かかることがあります。あわてて電源を切らず、しばらく待ってください。

十数分以上待っても画面が変わらないときは、電源スイッチを４秒以上押して電源を切ります。1 分程度待ってから電源を入れ直し、セットアップを行ってください。

Q

電源を入れたあと、ワンタッチキー付近から音がする

A

冷却ポンプに空気が入っています。故障ではありません。電源を入れたあと、数分で消えます。

Q

パソコンに飲み物をこぼしてしまった

A

すぐに Windows を終了し、電源を切ってください。やわらかな布などで拭きとり、水分が十分に乾いてからご使用ください。キーボードやマウスに飲み物をこぼした場合も、同様にしてください。そのあと、お問い合わせ先にご連絡ください。

Q

スタンバイ状態からもとに戻らない

A

アプリケーションや周辺機器がスタンバイ機能に対応していません。いったん電源を切ってから、スタンバイ機能をオフにしてお使いください。

参照

スタンバイ状態からの復帰について
→『使い勝手を良くする』1 章の「節電状態から復帰する」

ディスプレイ

Q

ディスプレイに何も表示されない

A

- ディスプレイのコントラストが暗くなりすぎていませんか？
  (外付けディスプレイの場合)
- ディスプレイの明るさが暗くなりすぎていませんか？
- 外付けディスプレイの表示になっているかも知れません。[Fn] ＋ [F7] キーで表示を切り替えてください。
- 節電状態になっていませんか？　節電状態から復帰するには、キーを押したり、マウスを操作してください。それでも復帰しないときは、スタンバイ状態になっています。電源スイッチを押して復帰してください。
- バッテリーを電源として使用しているときに消灯しましたか？　バッテリーの残量がなくなりシステムスタンバイ状態になっています。AC アダプターを接続してからパソコンを復帰させてください。
- AC コードや AC アダプターが、パソコンに正しく接続されていますか？
- AC コードは AC100V のコンセントに接続してありますか？

Q

表示される画像が乱れる (外付けディスプレイの場合)

A

- パソコンの周囲に、電源の入っている精密機器を置いていませんか？
- パソコンの使用中に、パソコンやディスプレイの位置を変えていませんか？
  ディスプレイに地磁気の影響や色ムラが発生することがあります。一度電源を切り、30 分以上時間をおいてから再びご使用ください。

Q
ディスプレイの表示が読めない、または歪んでいる (外付けディスプレイの場合)
A
リフレッシュレートの設定がディスプレイの仕様を超えていませんか？

Q
カーソルだけが表示される
A
原因が特定できません。お問い合わせください。

Q
何も表示されず、ビープ音が 2 回以上鳴る
A
故障の可能性があります。お問い合わせください。

Q
電源が切れているのに、何か表示されている
A
故障の可能性があります。お問い合わせください。

マウス、ポインティングパッド

Q
マウスカーソルが動かない
A
・マウスケーブルが正しく接続されていますか？　接続し直す場合は、一度パソコンの電源を切ってからマウスケーブルを接続してください。
・コマンドプロンプト（MS-DOS モード）または、Safe モードで立ち上げていませんか？
USB マウスの場合、MS-DOS モードまたは Safe モードで立ち上げると、マウスが動かなくなることがあります。キーボードのキーで操作するか、パソコンを立ち上げ直して、通常のモードでお使いください。
A
・Windows か、実行中のアプリケーションに何らかの異常が発生しているかもしれません。次のようにして、異常が発生していると思われるプログラムを終了してください。
(Windows XP の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、[Delete] キーを押します。
[Windowsタスクマネージャー]が開きます。異常が発生していると思われるプログラムを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。
(Windows 2000 の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、[Delete] キーを押します。
[Windows のセキュリティ] が開くので、[タスクマネージャー] ボタンをクリックします。[Windows タスクマネージャー] が開きます。異常が発生していると思われるプログラムを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。
・そのまま、しばらく待ってください。アプリケーションの動作中、通信中や印刷中にもマウスが動かないことがあります。

重要
◎ **PS/2 タイプの場合、パソコンの電源が入っている状態で、マウスケーブルを取り付けたり取り外したりしないでください。**

参照
マウスケーブルの接続について→ 1 章の「接続しよう」(P.22)

重要
◎ **[プログラムの強制終了] で強制終了した場合、直前の作業内容は保存されていません。**

Q

マウスカーソルが動かしたい方に動かず、突然移動する

A

・AC 電源に問題があるかもしれません。系統の違う AC コンセントに変更するか、ノイズフィルター付き ＯＡ タップをご使用ください。
・周囲または体が静電気を帯びているかもしれません。静電気を取り除いてからご使用ください。

キーボード

Q

キーを押しても入力できない

A

・[Num Lock] キーを押します。[Num Lock] キーが押されていないと、テンキーで数字の入力ができません。
・大容量のデータのコピー中であったり、ダイアログボックスを開いてマウスで設定している場合は、一時的にキーボードからの入力を受け付けなくなります。

Q

正しい文字入力ができない / ワンタッチキーが動作しない

A

・キーボードを正しく設定します。
 1 [コントロールパネル] の [キーボード] アイコンをダブルクリックして開き、[ハードウェア] タブをクリックします。
 2 [デバイス] が「日本語キーボード (106/109) 」に設定されているか確認します。
 3 違っていた場合は [トラブルシューティング] ボタンをクリックし、メッセージに従って対応するキーボードを選びます。
 4 メッセージに従ってパソコンを立ち上げ直すと、キーボードの種類が変更され、入力できるようになります。

電源

Q

電源スイッチを入れたが、電源が入らない

A

・AC アダプター、電源コード (AC コード) が、正しく接続されていますか？
・AC アダプターのコネクターが接触不良を起こしていませんか？
・コンセントは正常に通電していますか？　ほかの電源が必要な器具を接続してご確認ください。
・バッテリーを使用している場合、バッテリーが正しく接続されていますか？
・バッテリーを使用している場合、バッテリー残量は十分にありますか？

Q

電源スイッチを入れたら、「Non-System disk ～」と表示されてパソコンが立ち上がらない

A

前回のパソコンの使用中にセットした FD が、FDD に入れたままになっていませんか？　FD を抜いたあと、[Enter] キーを押してください。

Q

エラーメッセージが表示された

A

・エラーメッセージの内容をご確認ください。
・BIOS メニューの設定に問題があるかもしれません。BIOS メニューを開いて、ご購入時の状態に戻してください。
・ディスプレイ、プリンターなどの周辺機器を正しく接続していますか？

参照
エラーメッセージについて→「電源を入れたときの異常」(P.46)

参照
詳しくは→『Windows を使えるようにする』3章の「BIOS の設定を戻す」

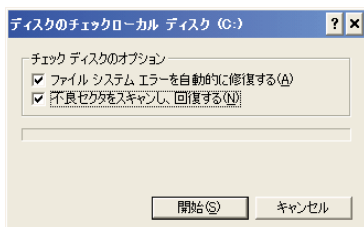
システムの動作がおかしい

Q

Windows が立ち上がらない

A

・フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないか確認します。
・Windows が破損していないかを確認します。再セットアップ用の FD から立ち上げてみます。立ち上がれば HDD 中の Windows が破損している可能性があります。
・セーフモードで立ち上げ、チェックディスクを実行します。

1 パソコンの電源を入れ、起動画面が表示されたらすぐに、アラーム音が鳴るまで [F8] キーを押す。
2「セーフモード」を選択し、[Enter] キーを押す。
3「Microsoft Windows XP Professional」を選択し、[Enter] キーを押す。(Windows XP の場合)
4 ユーザーを選択しログオンすると、セーフモードで起動するメッセージが表示されるので、[はい] ボタンをクリックする。
5 [スタート] ボタン－ [マイコンピュータ] を選択する。
6 [ローカルディスク（C：）] アイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックする。
7 [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] の [チェックする] ボタンをクリックする。
8 [ファイルシステムエラーを自動的に修復する] と [不良セクタをスキャンし、回復する] をチェックし、[開始] ボタンをクリックする。チェックディスクが開始され、終了すると結果レポートが表示される。

9 [OK] ボタンをクリックする。
10 Windows を立ち上げ直す。

・FD から立ち上げている場合は、その FD が Windows 立ち上げ用の FD であるか、FDD に正しくセットされているかご確認ください。

ヒント
★ Windows 2000 では操作の一部が異なります。

Q

Windows やアプリケーションが終了できない

A

・アプリケーションを強制終了させます。
アプリケーションを立ち上げている場合は、タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] をクリックします。[アプリケーション] タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。そのあと、[タスクマネージャ] を [×] ボタンで終了します。
・パソコンを強制終了させます。
(Windows XP の場合)
タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] から「シャットダウン」ボタンをクリックし、Windows を終了します。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
(Windows 2000 の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押し、[Windows のセキュリティ] から「シャットダウン」ボタンをクリックします。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。

・フロッピーディスクから Windows が立ち上がらないときは、フロッピーディスクがドライブに正しくセットされているか、起動 FD かご確認ください。
・Windows を再セットアップします。

参照
再セットアップについて→『Windows を使えるようにする』の 3 章「ご購入時の状態に戻すには」

Q

立ち上げ時、ピーといって立ち上がらない

A

・キーボードの上に物が乗っています。物を取り除いてください。
・キーを押しつづけています。キーから手を離してください。

Q

キーボードなどを操作しても画面の表示が変わらない

A

・アプリケーションを強制終了させます。
アプリケーションを立ち上げている場合は、タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] をクリックします。[アプリケーション] タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。そのあと、[タスクマネージャ] を [×] ボタンで終了します。
・パソコンを強制終了させます。
(Windows XP の場合)
タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] から「シャットダウン」ボタンをクリックし、Windows を終了します。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
(Windows 2000 の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押し、[Windows のセキュリティ] から「シャットダウン」ボタンをクリックします。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
・ドライブ C のファイルを削除して空き容量を増やします。
・メモリーを増やします。
・決まったアプリケーションを使用しているときに起きるときは、そのアプリケーションを削除し、再インストールします。

・ハードディスクを修復します。
1 [スタート] ボタン－ [マイコンピュータ] を選択する。
2 [ローカルディスク（C：）] アイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックする。
3 [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] の [チェックする] ボタンをクリックする。
4 [開始] ボタンをクリックする。スキャンディスクが開始され、終了すると結果レポートが表示される。
5 [OK] ボタンを 2 回クリックする。

Q

電源を入れたら「ドライブのエラーをチェックしています」と表示された

A

ドライブのエラーをチェックするためにスキャンディスクが立ち上がっています。数分で終了するので、終了するまではパソコンを操作したり、電源を切ったりせずにそのまま待ちます。

Q

Windows を立ち上げるたびにチェックディスクツール (スキャンディスク) が実行される

A

・ドライブのエラーが修復されないまま残っています。スキャンディスクを実行してエラーを修復します。
1 [スタート] ボタン－ [マイコンピュータ] を選択する。
2 [ローカルディスク（C：）] アイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックする。
3 [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] の [チェックする] ボタンをクリックする。
4 [開始] ボタンをクリックする。スキャンディスクが開始され、終了すると結果レポートが表示される。
5 [OK] ボタンを 2 回クリックする。

・付属や市販のコンピューターウィルスソフトでウィルスチェックします。
・Windows を再セットアップします。
・パソコンを修理に出します。

参照

再セットアップについて→『Windows を使えるようにする』の 3 章「ご購入時の状態に戻すには」

Q

コマンドプロンプト (MS-DOS プロンプト) 画面が全画面表示になってしまった

A

[Alt] キーを押したまま [Enter] キーを押します。

アクセスランプ

Q

ランプが点灯したままになっている

A

・HDD が壊れていませんか？ [チェックディスク（スキャンディスク）] を実行して HDD にエラーがないかチェックしてください。[チェックディスク（スキャンディスク）] は、ディスクのプロパティーで [ツール] タブの [チェックする] ボタンをクリックすると立ち上がります。
・実行しようとしたアプリケーションが壊れていませんか？別のアプリケーションを実行してみてください。

BIOS メニュー

Q

BIOS メニューの設定を変更したら、正しく動作しなくなった

A

BIOS メニューの設定値を出荷時の状態に戻します。増設した PC カードがある場合は取り外し、BIOS メニューの [BIOS Utility] 画面で [Load Default Settings] を実行し、設定値を出荷時の状態に戻します。

参照

詳しくは→『Windows を使えるようにする』3 章の「BIOS の設定を戻す」

Q

セットアップの実行エラーが表示される

A

パソコン内部に設置されているリチウム電池が消耗しています。お問い合わせの上、リチウム電池の交換を依頼してください。お客様自身で交換することはできません。なお、リチウム電池を取り外すと、メモリーに入っている BIOS メニューで設定した情報が消えます。設定内容はあらかじめ控えておいてください。

参照

お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.3)

時計

Q

時計が遅れるときは (リチウム電池の交換)

A

・ パソコンのリチウム電池が消耗すると、パソコンの時計が遅れたり、BIOS メニューの設定が正しく表示されなくなります。また、「セットアップの実行エラー」が繰り返し表示されたり、「CMOS Checksum Error」などと表示されます。このようなときは、リチウム電池を交換する必要があります。
・ 寿命で交換する場合はお問い合わせ先までご連絡ください。お客様自身で交換できません。なお、リチウム電池を取り外すとメモリーに入っている BIOS メニューで設定した情報が消えます。設定内容はあらかじめ控えておいてください。

ヒント

★ 「セットアップの実行エラー」は、リチウム電池が正しく接続されていない場合にも表示されます。

参照

リチウム電池の寿命について→「有寿命部品」(P.61)

電子マニュアル

Q

電子マニュアルが立ち上がらない

A

「活用百科」CD の [install] フォルダーの中の [ar505jpn.exe] をダブルクリックし、Acrobat Reader をインストールします。

Q

画像が表示されず、グレーのボックスになる

A

[ファイル] ─ [環境設定] ─ [一般] をクリックし、[データ量の多い画像を表示] にチェックマークを付けます。

Acrobat Reader がインストールできない

A

ご使用中のソフトウエアによっては、インストールできないことがあります。この場合は､そのソフトウエアをアンインストールしてから Acrobat Reader をインストールします。そのあとで、アンインストールしたソフトウェアをインストールし直します。ソフトウエアをアンインストールしても \Windows\Temp フォルダーに一部のファイルが残ることがあります。このときは、Temp フォルダー内のファイルを削除します。

ソフトウェアのトラブル

Q

アプリケーションが実行できない

A

- このパソコンおよびインストールされているOSで使用できるアプリケーションですか？
- そのアプリケーションの実行に必要なメモリー容量が実装されているか、Windows のバージョンを正式にサポートしているアプリケーションであるかなどをご確認ください。
- どのアプリケーションも正しく実行できなければ、Windows が壊れているかもしれません。フロッピーディスクやその他の媒体に必要なファイルのバックアップを取り、Windows を再セットアップしてください。

参照

Windowsの再セットアップ→『Windowsを使えるようにする』の 3 章「ご購入時の状態に戻すには」

付録

パソコン仕様一覧

形名		270W NW4
CPU（ヒント1）		Mobile Intel® Pentium® 4 processor-M 2.20GHz
キャッシュメモリー	1次	12Kμ命令実行トレースキャッシュ／8KBデータキャッシュ（CPU内蔵）
	2次	512KB(CPU内蔵)
	キャッシュ有効範囲	メモリー0～512MB
RAM	メモリー(ヒント1、2)	128～1024MB（DDR-SDRAM）
	最大メモリー	1024MB
	ビデオメモリー	16MB固定（DDR-SDRAM）
ROM		BIOS 512KB（Flash ROM）
ディスプレイ（重要1）		15型TFT(最大1400×1050)
表示能力	半角	8×19ドット、80桁×25行
	全角	16×19ドット、40桁×25行
グラフィック(ヒント3)	640×480ドット時	256色／65536色／1677万色
	800×600ドット時	256色／65536色／1677万色
	1024×768ドット時	256色／65536色／1677万色
	1280×1024ドット時	256色／65536色／1677万色
	1400×1050ドット時	256色／65536色／1677万色
	1600×1200ドット時	256色／65536色／1677万色
FDD		3.5型×1
HDD(ヒント1、4)		30GB／60GB
ファイルベイ(ヒント1)		なし（ウェイトセーバー）／CD-ROM／CD-R/RW／DVD-ROM&CD-R/RW
カレンダー時計(重要2)		年月日、時分秒を刻時、刻時誤差±180秒／月
スピーカー		2個 ステレオ
バックライト		冷陰極蛍光灯 1灯
キーボード		87キー
ポインティングパッド		静電式ポインティングパッド(四方向スクロール)
バッテリー（ヒント1）		リチウムイオン標準バッテリー／リチウムイオン大容量バッテリー／なし

形名		270W NW4
インタフェース コネクター	プリンター	1 個　IEEE1284 準拠、SPP（双方向／ ECP）
	ライン入力	1 個 入力インピーダンス 10kΩ (Typ.)
	ヘッドホン	1 個　適合インピーダンス 8 ～ 32Ω (Typ.)
	IEEE1394	1 個（4 ﾋﾟﾝ）
	USB	2 個 許容電流　2 ポート使用時合計：750mA 以下 1 ポート使用時合計：500mA 以下
	モデム（ヒント 1)、 (重要 3)	なし／ 1 個：DATA 最大 56Kbps（V.90）
	LAN	1 個 IEEE802.3 規格準拠、100BASE-TX/10BASE-T、 オートネゴシエーション機能
	マウス／テンキーボード	1 個　専用 6 ピン（許容電流：300mA 以下）
	ディスプレイ	1 個 VESA/DDC1/2B 準拠
	シリアル	1 個 PC-97 準拠 9 ピン
無線 LAN（ヒント 1)、(重要 4)		なし／ IEEE-802.11b 準拠 (Ch1 ～ Ch11)
PC カードスロット（ヒント 5)		TypeⅡ × 2 または TypeⅢ × 1 PC Card Standard (JEITA Ver.4.2) 準拠 CardBus 対応
電源	周波数	50/60Hz
	入力電圧	AC100V ± 10%
消費電力 (ヒント 6)	定常	約 32W
	最大	74W
	スタンバイ時	約 2.3W
	電源スイッチ OFF 時	約 1.0W
省エネ法に 基づく表示	区分	S
	エネルギー消費効率 (ヒント 7)	0.00039
外形寸法 (ヒント 8)		326mm(W) × 275mm(D) × 46mm(H)
質量（ヒント 9)		約 3.9kg
周囲温度	動作時 (重要 5)	5 ～ 35 ℃
	非動作時	− 10 ～ 43 ℃
	保存および輸送時	− 10 ～ 60 ℃
周囲湿度	動作時 (重要 5)	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	非動作時	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	保存および輸送時	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	最大湿球温度	25 ℃

ヒント

★ 1：購入時の選択により異なります。

★ 2：Windows の「システムのプロパティ」でメモリー容量を確認すると、実際の容量より小さく見えることがあります。

★ 3：液晶ディスプレイでは、1677 万色はディザリング表示になります。
Windows XP では、65536 色は中 (16 ビット)、1677 万色は最高 (32 ビット) です。
Windows 2000 では、65536 色は High Color(16 ビット)、1677 万色は True Color(32 ビット) です。
Windows XP では、256 色および 640 × 480 ドットは使用できません。

★ 4：電源を切ると、HDD のヘッドは自動的に退避ゾーンに移動します。HDD の容量は、$1GB=10^9$ バイトで計算した場合の数値を表しています。

★ 5：12V 電源を必要とする PC カードは使用できません。

★ 6：パソコンを使用しないときは、電源を切り、AC アダプターのプラグをコンセントから抜かれることをおすすめします。待機時の消費電力を低減できます。

★ 7：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定により測定された消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

★ 8：厚さ (H) は最薄部の値です。最厚部は 65㎜（脚部含まない）です。

★ 9：リチウムイオン標準バッテリー、CD-ROM ドライブ実装時の質量です。

ヒント

★ KB と kB･･･記載の単位は、K(大文字):1024、k(小文字):1000 で換算しています。

重 要

◎ 1：パソコンの液晶ディスプレイ部 (バックライト) には重金属 (水銀) が使用されています。
内部のサブユニット (基板、ドライブなど) には重金属 (鉛) が使用されています。

◎ 2：刻時誤差は、リアルタイムクロックの数値です。Windows の時間とずれることがあります。

◎ 3：内蔵モデムの通信速度最大 56Kbps は、データ受信時の最大速度の理論値です。
内蔵モデムは日本国内専用です。海外では使用できません。

◎ 4：内蔵無線 LAN は、日本の電波法に基づき設計されています。海外で使用すると、罰せられる場合があります。
内蔵無線 LAN の Peer-to-Peer 接続は、同一機種同士の接続のみサポートとなります。オプションの無線 LAN カード (PC-CN3200,PC-CN3400) や、他機種の PC 内蔵無線 LAN との Peer-to-Peer 接続はできません。
内蔵無線 LAN は、128bit 暗号をサポートしています。40/64bit 暗号と 128bit 暗号が設定可能です。

◎ 5：長時間の非動作時から動作させる場合は、周囲の温度や湿度になじむまで時間を置いてから起動してください。

参照

メモリーボードの詳細について→ 3 章の「メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた」(P.42)

有寿命部品

パソコンの部品は、長期間使用しているうちに劣化、磨耗します。次の部品は、一定周期で交換してください。これらは有償です。購入については、お買い求め先にご連絡ください。
なお、交換した部品は、パソコン購入時の部品と仕様が異なる場合があります。

品 名	備 考
ハードディスクユニット	*1
フロッピーディスクユニット	*2
CD-ROM ドライブ	*3
CD-R/RW ドライブ	
DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ	
液晶表示装置	*1、4
キーボード	*1
マウス	*2
ファン	*1
AC アダプター	*1
液冷モジュール	*1
バッテリーパック	*5
リチウム電池	*6

＊1：事務室で1日に約8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は約5年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。更に、1日8時間以上、連続で通電した場合は、いちじるしく寿命が短くなります。
＊2：事務室で1日に約8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定し、定期的にクリーニングして、清潔に保った場合、寿命は5年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
＊3：事務室で1日に約8時間、1カ月で25日間、データを読み込むと想定した場合、寿命は約5年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
＊4：明るさが工場出荷時の約1/2に低下したときを寿命とします。
＊5：寿命は約300サイクルです。または、通常の事務環境で過充電せず定期的に完全放電した場合は、約1年です。過充電したり、負担のかかる使い方をすると、寿命は短くなります。
＊6：事務室で1日に8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は5年です。リチウム電池は、パソコンが無通電状態の時に消費されます。使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は長くなります。使用しない場合でも定期的に通電されることをおすすめします。

⚠注意

◎ **アルミ電解コンデンサーについて：このパソコンやACアダプターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、週5日8時間使用で約5年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特にACアダプターでの電解液の漏れは、発煙の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では5年より寿命は短くなります。**

アフターケアについて

ここでは、このパソコンを購入されたあとに受けられるアフターケアについて説明します。

保証書について

保証書は大切に保管しておいてください。
保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容に基づいて無料で修理いたします。
詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間終了後の修理については、お問い合わせ先にご相談ください。

保守サービスについて

保守サービスをお受けになる際は、お問い合わせ先にご相談ください。
詳細についてはサポート & サービスのご案内をご覧ください。

保守部品について

パソコン用保守部品の保有期間は製造終了後 6 年です。
対象は、HITACHI FLORA270W シリーズ（マウス含む）とします。
周辺機器については、それらの取扱説明書をご参照ください。

さくいん

F
FLORA インフォメーションセンター 3

H
HITAC カスタマ･アンサ･センタ 3

L
LAN ケーブル 24

O
OS 3

あ
アフターケア 62

え
エラーメッセージ 46

お
置き場所 22

き
基本ソフト 3
強制取り出し 36

し
姿勢 22

て
電源スイッチ 27
電子マニュアル 16

は
パソコン 30

ひ
日立リサイクルホットライン 4

ふ
フォーマット 38

ま
マニュアル 16

め
メモリーボード 42

も
モデム 25

ゆ
有寿命部品 61

ら
ランプ 32

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。
それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

・ENERGYSTAR はアメリカ合衆国環境保護庁の登録商標です。
・Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
・Intel、Pentium は Intel Corporation の登録商標です。
・その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

パソコンを準備する

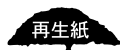
ー電源を入れるまでー

第 2 版　2002 年 12 月

株式会社　日立製作所

インターネットプラットフォーム事業部

〒 243-0435 神奈川県海老名市下今泉 810 番地

お問い合わせ先：HCA センタ 0120-2580-91

NW0401000-2

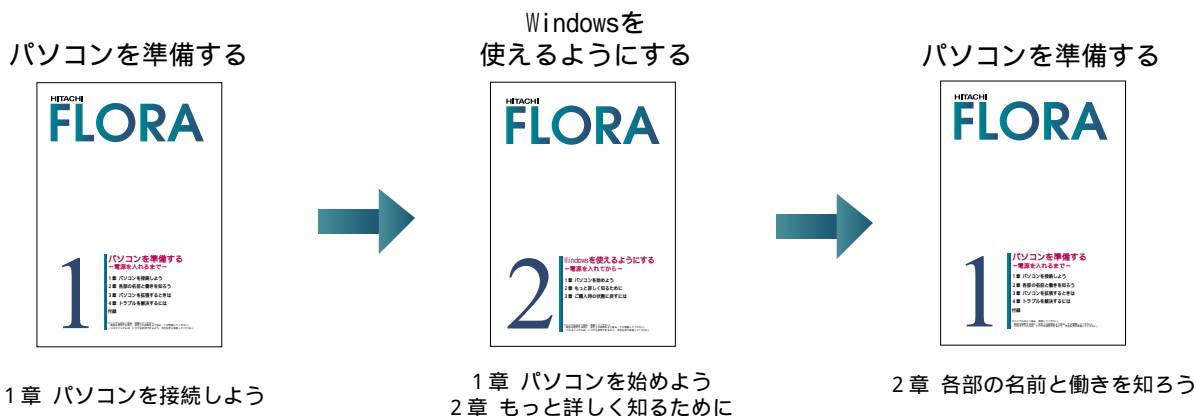
マニュアルの使い方

はじめてパソコンを使うときは

パソコンを準備する → Windowsを使えるようにする → パソコンを準備する

１章 パソコンを接続しよう

１章 パソコンを始めよう
２章 もっと詳しく知るために

２章 各部の名前と働きを知ろう

はじめてパソコンを使うときは、マニュアルの各章を→の順に読みながらパソコンを操作しましょう。
使いながら、パソコンとWindowsの基本的な操作を学ぶことができます。

電子マニュアルを見るには

Windowsを
使えるようにする

２章
もっと詳しく知るために

困ったときは

パソコンを準備する → 使い勝手を良くする（電子マニュアル） → Windowsを使えるようにする

４章
トラブルを解決するには

５章 パソコンQ&A

３章 ご購入時の状態に戻すには

パソコンの調子がおかしいときは、マニュアルの各章を→の順に読むことをお勧めします。
パソコンをご購入時の状態に戻す必要があるときは、さらに→の順にお読みください。

NW0401000-2